

# 筑波法政

第 2 号

1979年 3 月

---

## 〈論説〉

- 憲法と教育—教育を受ける権利の性格……………小 松 件 進  
アメリカゾーニング争訟における原告適格……………荒 秀  
譲渡担保と火災保険ないし火災共済(二)……………中 馬 義 直  
千年王国運動としての黄巾の乱……………三 石 善 吉

## 〈書評論文〉

- 冷戦と政策科学に関する一断章—Ernest R.  
May, "Lessons" of the Past……………進 藤 榮 一

## 〈研究ノート〉

- 物権的請求権と訴訟をめぐる若干の問題……………三 谷 忠 之
- 

筑波大学社会科学系 (法学・政治学)

## ◆編集後記◆

「一年の計は穀を樹うるに如くはなく、十年の計は木を樹うるに如くはなく、終身の計は人を樹うるに如くはなし」とは『管子』権修篇の有名な言葉である。いま筑波大学は大八洲成立以来の広大な原始林をきりひらき、ここに巨大かつ近代的な人工都市を出現させた。つまり十年の計を捨てて百年の計にいったのである（尹知章の注によれば終身とは百年の寿をいう）。そして今、中央図書館の完成を間近かにひかえ、大学は漸くその巨大な全貌を顕わにしようとしている。これからますます、教官・学生・事務官の「三結合」による、優れて自覚的・先取的な精神の発揚が要求されるであろう。古き体質の「魔法の園」の呪縛から解放されて、時には「建学の精神」をも改めて再検討の俎上にのせる、大胆な進取の施策が必要とされる秋であると思われる。

ここに「筑波法政」第二号を世に送る。内容は、御覽のとおり、論説のほか書評論文、研究ノートも加わって多彩となった。のみならず、憲法、民訴の若き俊材も新たに参入して、構成平均年齢をいささか引き上げた。百年の計にはほど遠いが、徐々にスタツフの強化が進んでいることは喜ばしいことである。

(三石識)

## ◆法学研究会記事

第二回研究会（一九七八年三月一五日）

報告者 阿南成一教授

テーマ 安楽死

出席者 一二名

第三回研究会（同 四月二八日）

報告者 陳昭徳技官

テーマ 中国の現行行政訴訟制度とその問題点

出席者 一〇名

第四回研究会（同 五月二四日）

報告者 小松件進教授

テーマ 憲法と教育

出席者 一名

第五回研究会（同 七月一九日）

報告者 荒秀教授

テーマ 公法と私法の交錯

出席者 一五名

第六回研究会（同 一〇月一八日）

報告者 荏原明則（大学院生）

テーマ アメリカにおける情報公開

出席者 一五名

第七回研究会（同 十一月一五日）

報告者 木下明教授

テーマ 認知の訴えにおける父子関係の証明

出席者 一三名

筑波大学法学・政治学

法学

○小松件進教授

憲法

阿南成一

法哲学

木下明

民法

○荒木秀

行政法・土地公法

○中馬義直

民法

椿寿夫

民法

南博方

行政法・租税法・憲法

島博方

商法

高賢治

憲法

○高見勝利

憲法

○三谷忠之

民事訴訟法

政治

大越義久

刑法

臼井勝美

近代日本政治外交史

○阿部斉

政治学

○進藤栄一

国際政治学

○三石善吉

東洋政治思想史

(○印本号執筆)

発行 1979年3月

編集者 椿 寿夫・南 博方・三石善吉

発行者 筑波大学社会科学系（法学・政治学）  
〒300-31 茨城県新治郡桜村 筑波大学  
電話 (0298) 53-4008

印刷者 株式会社 榮泰印刷  
東京都板橋区中丸町29-8  
電話 (03) 973-2277

# TSUKUBA REVIEW OF LAW AND POLITICAL SCIENCE

No. 2

March 1979

---

## Contents

### Articles

- Constitution and Education — The Character of the Right  
to Education ..... Kenshin Komatsu
- Standing in American Zoning Litigation ..... Hide Ara
- Mortgage and Fire Insurance or Fire Mutual Aid  
(Part II) ..... Yoshinao Chuma
- Huang-jin (黄巾) Uprising from the Viewpoint of the  
Millennium ..... Zenkichi Mitsuishi
- Review Article**
- Reflection on the Cold War and Policy Science ..... Eiichi Shindo
- Research Note**
- Einige Probleme über den dinglichen Anspruch und seinem Prozesse  
..... Tadayuki Mitani

---

Published by Division of Law and Political Science  
Institute of Social Science  
University of Tsukuba, Japan